「看護の日」特別講義を聴いて

准看護科　１年　岩根　悠愛

令和８年５月12日に「看護の日」特別講義があり、准看護科の卒業生である２名と、ＥＰＡ１名の方に講義をしていただきました。

１人目の坂井講師の話では、訪問看護について学びました。坂井講師は、自身の両親の介護を経験したことをきっかけに准看護師を目指したとのことでした。最初は訪問看護を利用しながら介護を行っていたそうですが、看護について学んでいくうちに知識や技術を持って介護を行うことの大切さを感じたそうです。この話を聞き、看護の知識や技術を身に付ける大切さを学ぶことができました。

訪問看護では、患者様の家に訪問し、医療的ケアだけでなく、生活面の支援も行うことを知りました。訪問看護の１つである在宅看護については、自宅で生活する患者様や家族を支えることも看護であることを学びました。また、家族を最後まで自宅で看取る看護についての話が特に印象に残っています。

２人目のアンドレア講師の話では、日本で看護師として働く中での苦労について学びました。特に看護記録を書くことが難しく、言葉の表現や地域の方言に悩むことも多くあるという話から、クラスにいる多くの留学生も日本語を勉強する中で苦労があるのではないかと改めて感じ、クラスで支え合いながら勉学に励みたいと強く思いました。また、話を聞く中で私が一番印象に残ったのは、「完璧を求めるのではなく、努力し続けることが大切である」という言葉です。この言葉を聞き、私も失敗を恐れず学び続けられる看護師になりたいと考えました。

３人目の津留講師の話では、ＮＳＴ専門療法士や災害支援ナース、認定看護管理者、

特定行為看護師など、様々な分野について学びました。その中で印象に残ったのは、患者様を看護するだけでなく、その人の強みを引き出しながら支援することが大切であるということです。患者様の話を目と耳でしっかり聞くことで、必要な診療科へ繋げることも看護師の大切な役割であることを知りました。また、精神科看護では、支える側にもストレスが溜まる場合があるそうです。看護を提供することの基本には、自分自身を大切にすることが根幹にあると気づくことができました。坂井講師の話の中でもあった様に、患者様の生活背景、社会的側面をアセスメントすることでより患者様に寄り添えることができると知ることができました。

この講義を通して、特定行為看護師について興味を持ちました。自分自身の看護観を広げることができ、看護職者は医師の指示を待つだけではなく、自分自身の観察力と判断力で患者様に適切な医療を受ける支援ができる専門性の部分はとても興味深く、私が思い描く看護師像にとても近いと感じています。この学びから、自分自身の視野を広げ、看護について更に学びを深めていきたいと思います。

編集後記

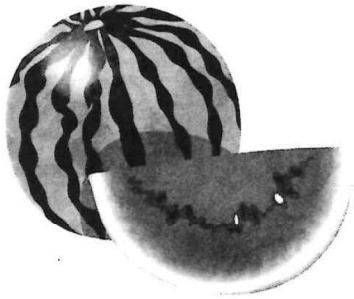
大分蒸し暑い季節となりました。大牟田メディカル７月号となります。

今回は巻頭言に富安信夫会長より２期目ご就任にあたっての所信表明をご寄稿いただいております。

また長らく大牟田医師会理事会にご貢献いただきました安藤謙治先生、上村正行先生よりご退任の挨拶をご寄稿いただいております。

両先生の長らくのお勤めに対し大牟田メディカル会報委員会からも厚く御礼申し上げます。

小野　貴也



発　行　所　大牟田市不知火町３丁目
大牟田医師会　TEL 53－2673㈹
発 行 者　富 安 信 夫
編集責任者　小 野 貴 也
印　　刷　大牟田市八尻町３丁目50
㈱ 江 崎 印 刷 所